

平成 2 4 年度

関東農政局補助事業評価（再評価・事後評価）

技術検討会（第 1 回）

現地調査資料

平成 2 4 年 1 1 月 1 5 日

## 目次

経営体育成基盤整備事業について . . . . . P3

大宝地区説明資料 . . . . . P5

畑地帯総合整備事業について . . . . . P13

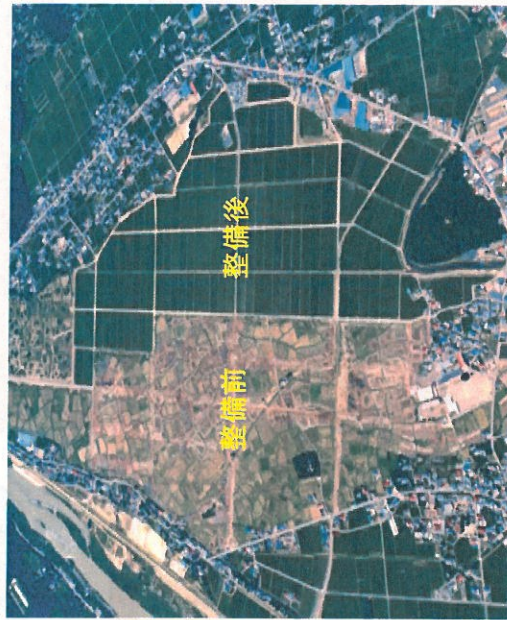
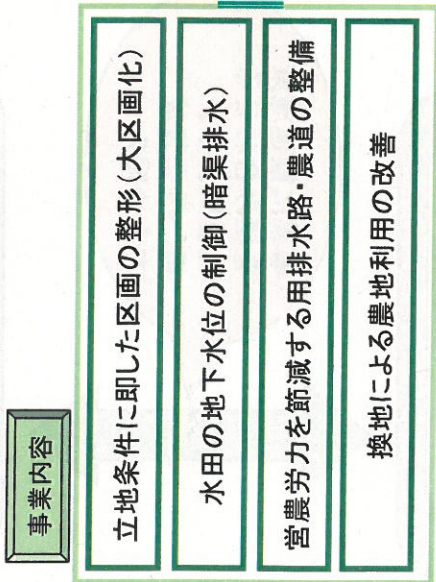
安静地区説明資料 . . . . . P14

# 経営体育成基盤整備事業

## 1. ほ場整備事業の目的と効果（総論）

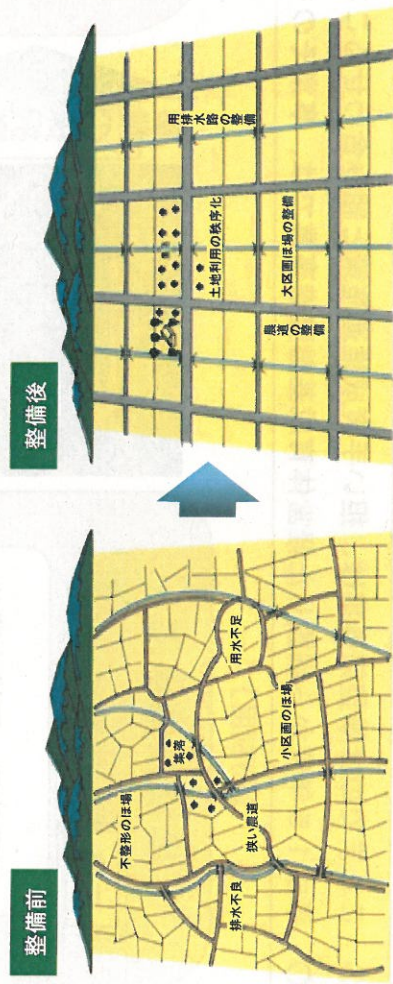
- 水田整備は、ほ場の大区画化、農道の整備、用水路・排水路の整備等を総合的に実施し、農業生産性を飛躍的に向上。
- また、排水条件の整備等により、稲作にしか利用できなかった湿田の汎用化を図り、麦・大豆等の畑利用を可能とし、農地の高度利用を実現。

### ○ 水田整備（ほ場整備事業）のポイント



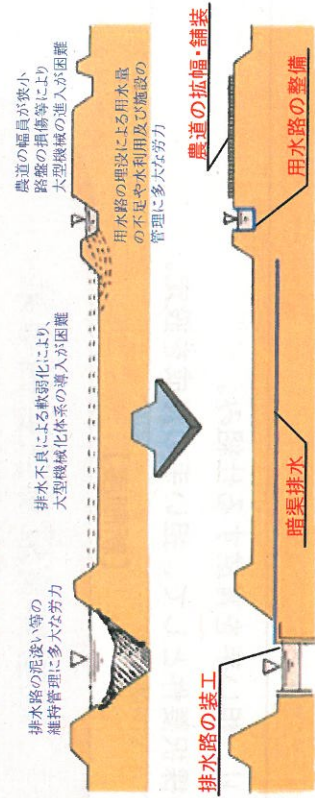
ほ場整備事業実施中の地区

### ○ 水田整備（ほ場整備事業）のイメージ



### ○ 更新整備について

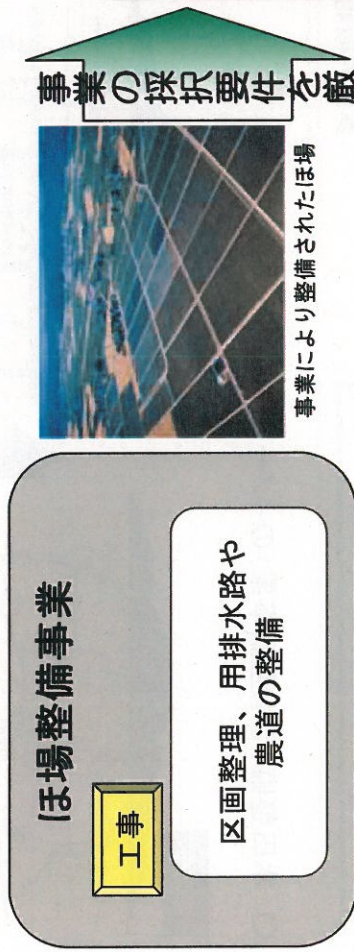
区画整理が終了した地域においても、施設の老朽化等に対応した施設の更新や機能向上が必要。



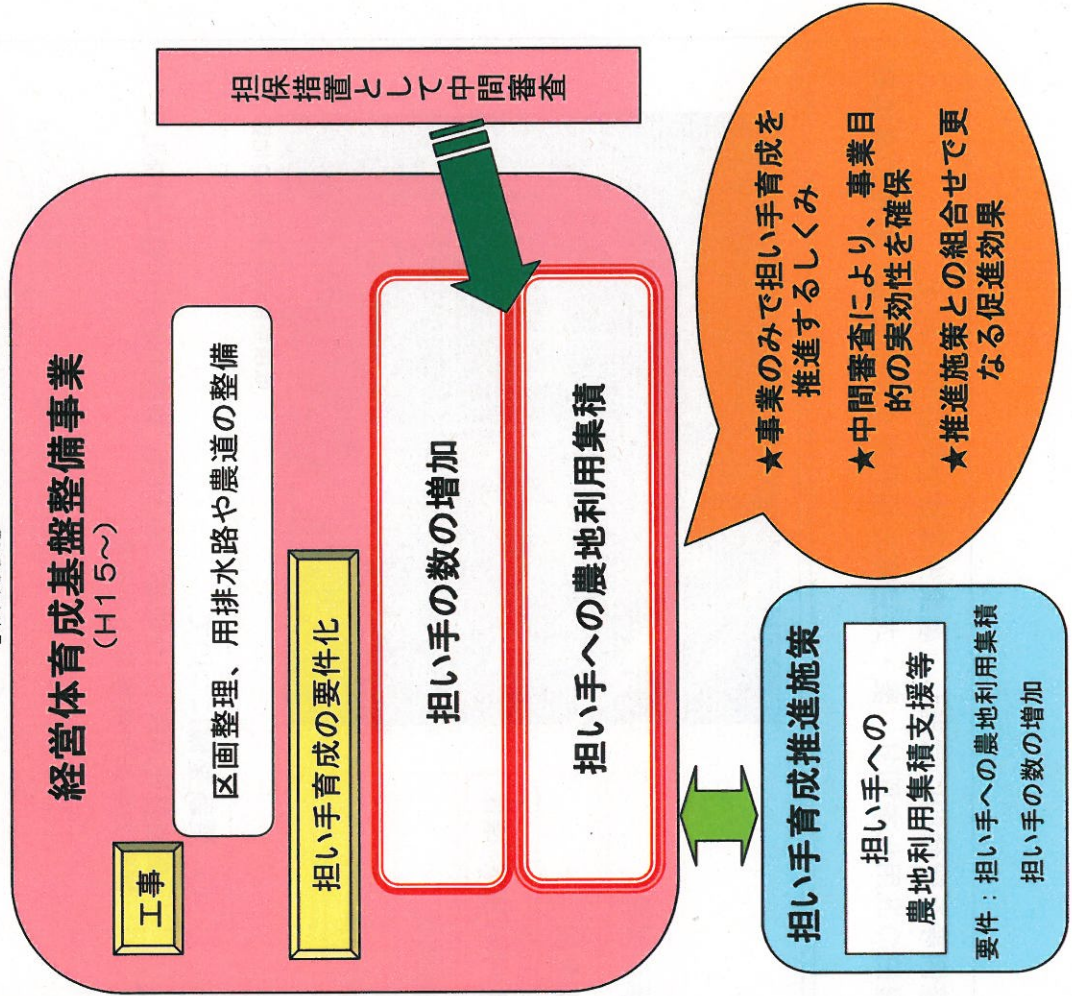
## 2. 経営体育成基盤整備事業

- これまでのほ場整備事業は、担い手育成推進施策と組み合わせることにより、担い手を育成する仕組み。
- 平成15年度から創設した経営体育成基盤整備事業では、事業そのものの採択要件として、担い手の育成を設定。

【旧制度】



【新制度】



事業により整備されたほ場

事業の採択要件を厳格化



農地利用集積についての話し合い

## 戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業「大宝地区」

### 1 地区の概要

本地区は大正初期に10a区画で整備されているが、区画が小さく道路も屈曲しているなど、耕作や作物の運搬に多大な労力を要している。また、大型農業機械の導入が進まず、効率的な農業生産に支障を来している。

このため、大区画化による農業生産性の向上と合わせ、地域の担い手農家を育成するとともに、農業所得の向上を図るものである。

### 2 事業内容

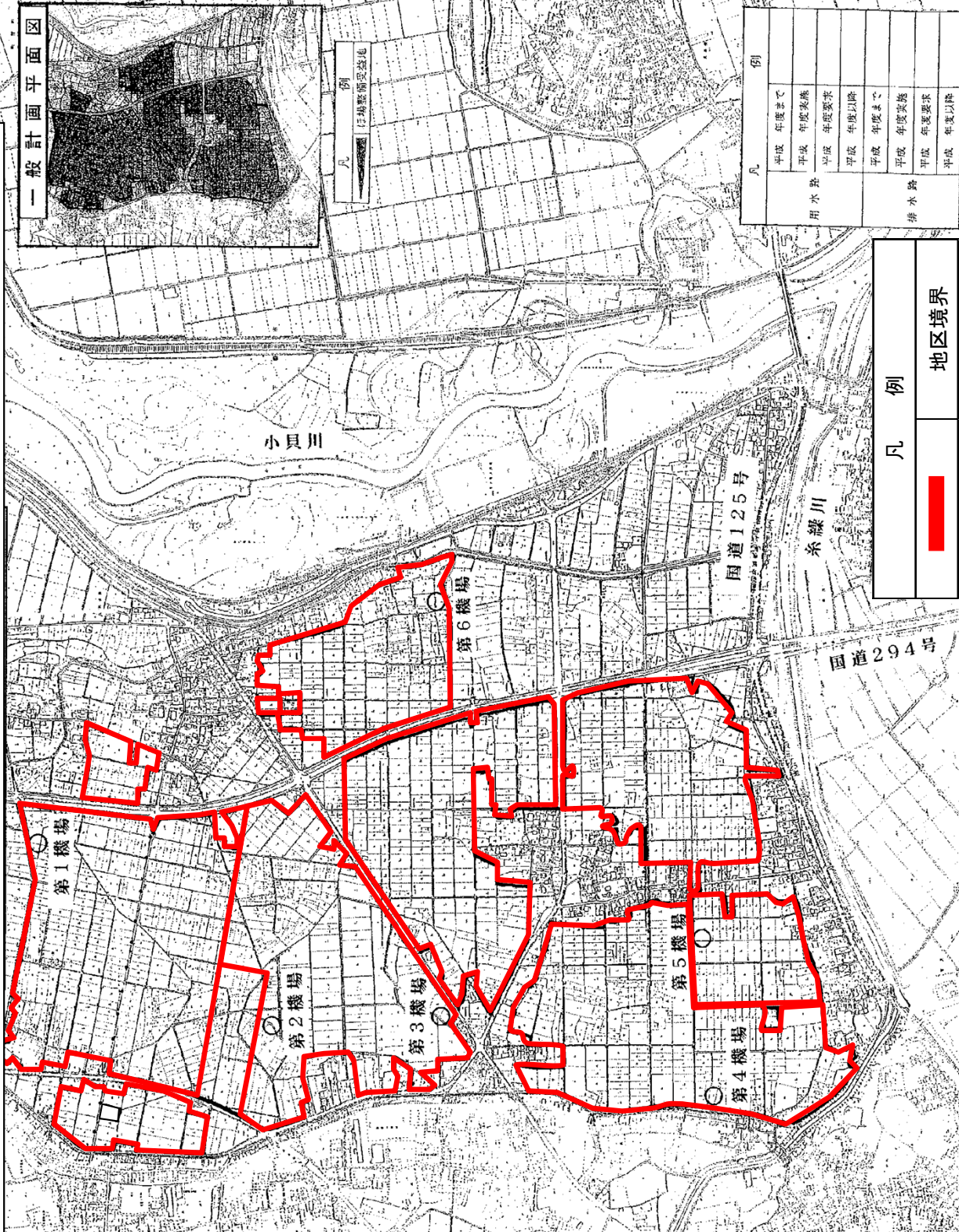
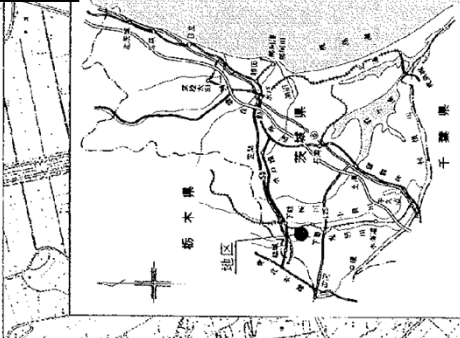
事業主体	茨城県
受益面積	147ha
関係市町村	下妻市
事業費	1,995百万円（平成24年度時点）
事業量	区画整理 A=147ha 用水路 L=3.1km 排水路 L=17.0km 農道 L=17.0km
工期	平成14年度～平成25年度
主要作物	現況：水稲、ねぎ 計画：水稲、大豆、レタス、キャベツ、ねぎ、小麦、きゅうり
平成23年度までの進捗率	84.2%

### 3 現在の状況

本地区は平成25年度完了に向け、実施しており現在84.2%の進捗率である。既に整備された水田は現況の10a区画から大区画化（30a～1ha）され、地区全体の約47%となる68.9haのほ場が1ha以上の区画となっている。また、狭小であった道路も整備されてきたことにより大型機械の導入が進められ、排水路等の整備で麦、そばの栽培も可能となってきている。

担い手農家は事業開始当初の10名から15名に増え、農地利用集積率は8.3%から35.3%になり、着実に集積が進んでいる。

# 戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業 大宝地区【事業実施前】



凡例  
 用水改善受益地

凡例

排水	年度まで
	年度未満
	年度要求
	年度以降
排水	年度まで
	年度未満
	年度要求
	年度以降

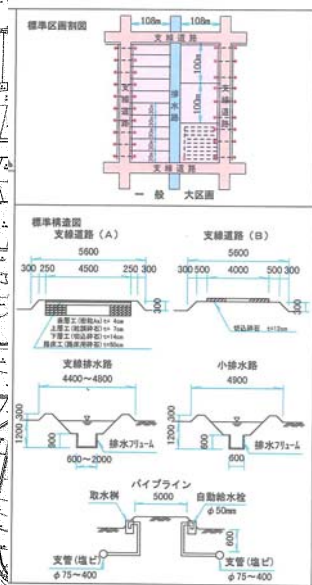
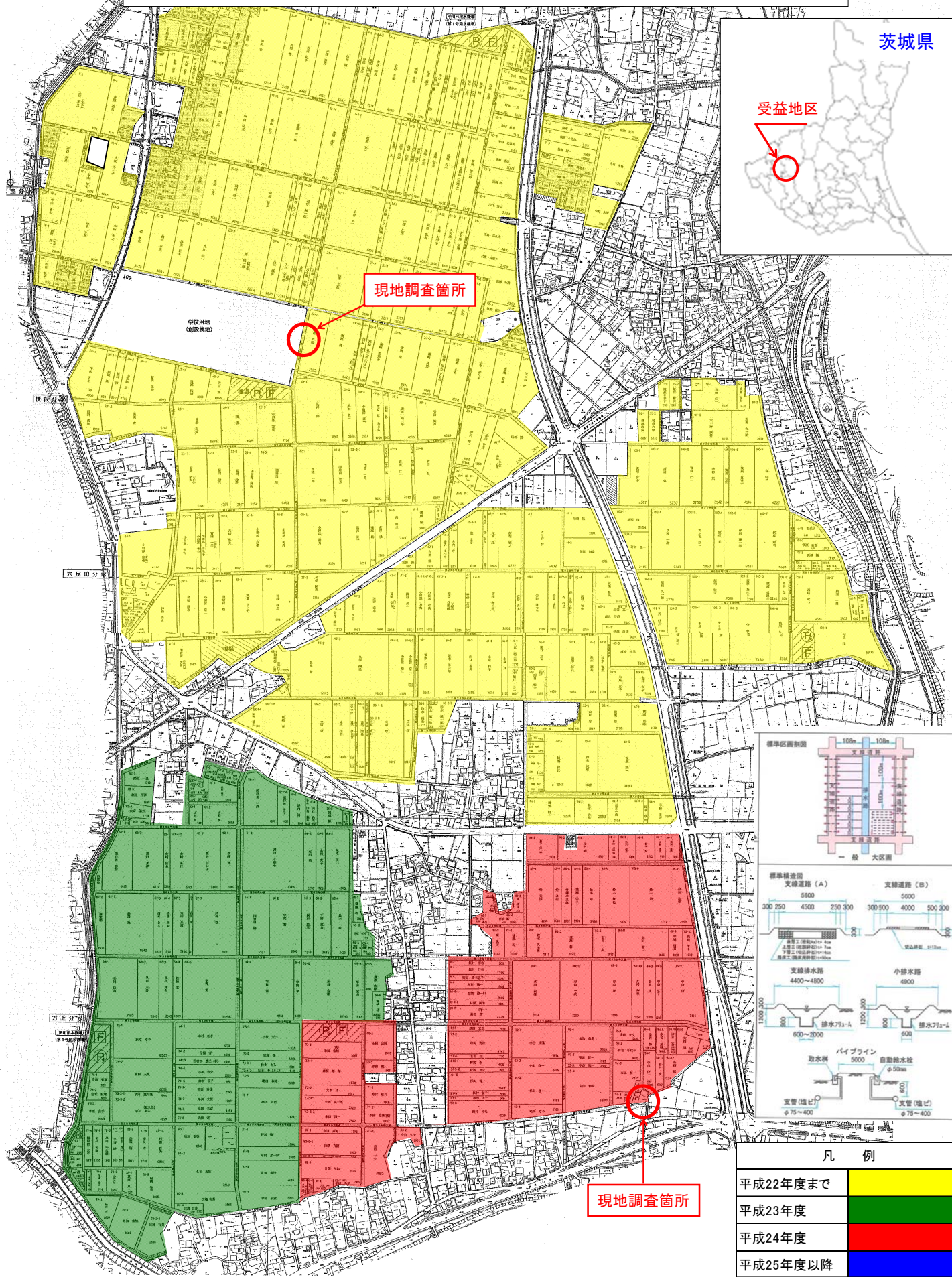
凡例

地区境界	
------	--

計画概要

（単位）	受益面積	田	畑	その他	計
日	ha	ha	ha	ha	ha
基礎投資	年度	年度	年度	年度	年度
千円	千円	千円	千円	千円	千円
総事業費	千円	千円	千円	千円	千円
受益面積	戸	反当事業費		千円/0	
事業目的 (策) 排水利用円滑化					
主要作物					
主 要 工 事					
(注)	A =	B =	C =	m	
	排水路		加圧機	m	
	排水工		排水工	m	

# 戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業 大宝地区【事業実施後】

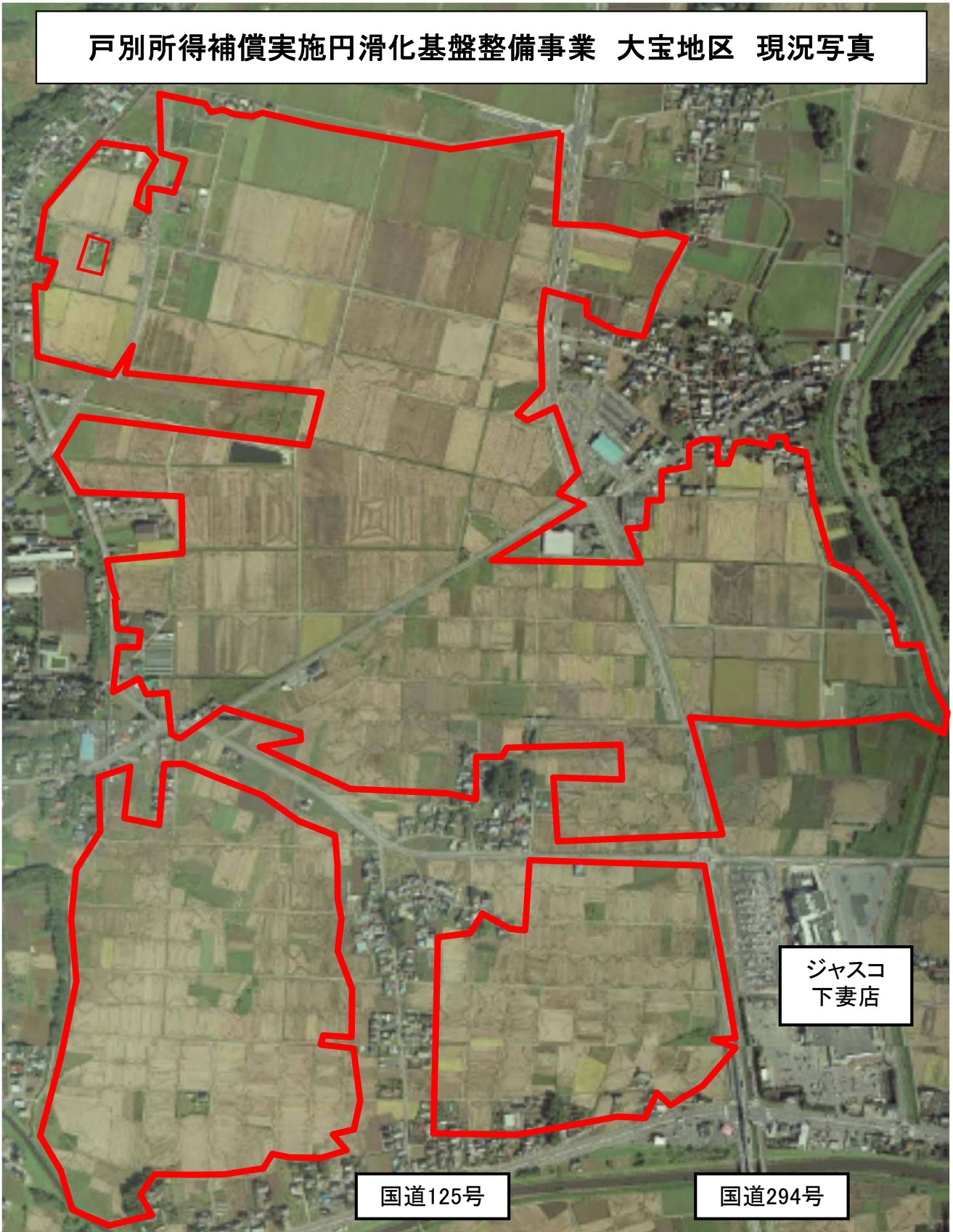


凡 例	
平成22年度まで	Yellow
平成23年度	Green
平成24年度	Red
平成25年度以降	Blue

現地調査箇所



戸別所得補償実施円滑化基盤整備事業 大宝地区 現況写真



ジャスコ  
下妻店

国道125号

国道294号

①区画整理(整備済)



②農道(W=5.0m支道)



### ③用水機場及び排水路



### ④転作作物(麦)の刈入れ状況





# 畑地帯総合整備事業

## (1) 畑地帯総合整備事業（一般型）

畑地帯においてかんがい排水、農道、客土、暗渠排水、農用地造成、区画整理、農地保全、営農用水、交換分合、営農施設の撤去及び移転、農業近代化施設等用地整備の各種土地改良事業を総合的に行う事業である。

- 採択要件：① 畑地かんがい排水、農道、区画整理のいずれかの事業を1つ以上行うこと（北海道ではこれらのほかに客土）（以下、基幹事業）
- ② 上記、基幹事業の他に、基幹事業と同種以外の事業で、かんがい排水、農道、客土（混層耕、除礫、心土破碎を含む）、暗渠排水、区画整理、農地保全の各事業及び農用地造成のうち1つ以上の事業を行うこと（以下、併せ行う事業）  
なお、営農用水、交換分合、農業近代化施設用地等の整備等を行う場合は、基幹事業あるいは併せ行う事業と併せて実施しなければならない。
- ③ 受益面積が次の要件を満たしていること
- 基幹事業：畑地かんがい排水、農道（100ha以上、沖縄、奄美にあつては50ha以上）、区画整理（100ha以上、沖縄、奄美にあつては60ha以上）  
客土（200ha以上）
- 併せ行う事業：かんがい排水、農道、客土、暗渠排水、区画整理、農地保全（50ha以上、沖縄、奄美にあつては20ha以上）、農用地造成（30ha以上、沖縄、奄美にあつては20ha以上）
- なお、併せ行う事業はそれぞれの受益地の1/2以上が基幹事業の受益地と重複しており、基幹事業と併せ行う事業とを合わせた全体の受益面積のうち、2/3以上が基幹事業の受益地になっていること。

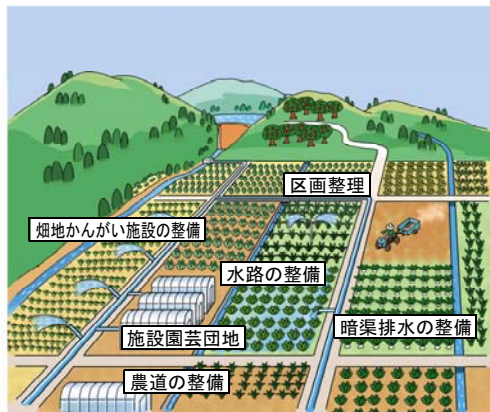
補助率：農林水産省 50%、北海道・離島 52%、沖縄 75%、奄美 2/3

事業主体：都道府県

整備前



整備後



## 畑地帯総合整備事業「安静地区」 事業概要

### 1 地区の概要

本地区は、八千代町南西部に位置し、東京から 60km 圏内と立地条件もよいものの、未整備であったため、区画は狭小で、湿畑も多く、農道は狭く屈曲していたため、耕作に支障をきたしていた。

このため、本事業により、農道、区画整理、畑地かんがい施設を総合的に整備し、計画的で安定した営農の確立を目指す。

### 2 事業内容

事業主体 : 茨城県

関係市町 : 八千代町, 常総市 (旧石下町)

関係土地改良区 : 霞ヶ浦用水土地改良区

受益面積 : 305ha (最外周)

農道 A=305ha, 農業用水 A=90ha, 区画整理 A=183ha

受益戸数 : 563 戸

総事業費 : 2,579 百万円

負担率 : 国 50%, 県 30%, 地元 20%

主要工事 :

主要工種	事業量	規模・規格
農道	L=6.7km	アスファルト舗装 (全幅 7m, 有効幅員 5.5m)
農業用水	A=90ha	3 機場, ハイライン 23.9km
区画整理	A=183ha	標準 30a 区画 (30m×100m) 支線道路 L=10.4km 排水路 L=15.9km

工期 : 昭和 59 年度 ~ 平成 18 年度

関連事業 : 水資源機構営霞ヶ浦用水事業

国営かんがい排水事業 霞ヶ浦用水一期, 二期期地区

県営かんがい排水事業 霞ヶ浦用水Ⅲ期地区

主要作物 : (実施前) はくさい、メロン、レタス、キャベツ、水稻

(実施後) はくさい、レタス、キャベツ、メロン、ほうれんそう、  
すいか、ねぎ等

### 3 事業の成果

区画整理により、ほ場が大きくなり（標準区画 30a）、農道、排水路が整備されたことにより、大型機械を利用した営農が可能となる等、効率的な農作業が行えるようになった。また、畑地かんがい施設の整備により、農業用水を利用することで、計画的な定植やハウス栽培を行うことができ、農業経営の安定化を図ることができた。

なお、本事業地区内の認定農業者数は、事業実施中（平成 9 年度）の 14 戸から事業完了時点では 54 戸へ大幅に増加した。

### 4 野菜産地の形成

本事業地区は、安定的なかんがい用水が確保されたこと等から、葉菜類（はくさい、レタス、キャベツ、ほうれんそう、ねぎ）等、年間を通じて様々な作物の栽培が可能となり、周年出荷体制の確立が図られている。

本事業に続いて本地区周辺の畑地帯において事業が行われたことで、一大野菜産地が形成されている。

- ・下結城地区（S62～H24 予定）区画整理 A=84ha，農業用水 A=127.9ha
- ・道六地区（H6～H17）区画整理 A=27ha，農道 L=0.7km
- ・中結城地区（H16～H25 予定）区画整理 A=66ha，農業用水 A=47.5ha

なお、本事業地区を含む八千代町は、全国最大規模のはくさいの産地となっており、作付面積・収穫量とも全国 1 位<sup>※</sup>である。同町で生産される「春はくさい」は、県銘柄産地に指定（H21 年）されており、地域農業の振興にも寄与している。

※農林水産省 農林水産関係市町村別統計（H22 年度）野菜指定産地に包括されている市町村を調査

### 5 県内での畑地かんがい普及への貢献

茨城県では、畑地かんがいの普及が全国と比べ遅れていることから、畑地かんがいの普及啓発活動の一環として平成 16 年度に畑かんマイスター制度を導入した。

これは、事業の計画地区や啓発地区の農家が畑地かんがいを使用している先駆的実践者から直接話を聞くことで理解を深め、事業への参加を勧めるものである。現在、知事から 26 名の方が委嘱を受けており、安静地区においては 3 名の方にご活躍頂いている。

また、本地区は、霞ヶ浦用水を使った最初の地区であり、H13 年度から施設を利用していることから、先進地研修の受け入れ先となっている。研修は H16 年度から計 43 回を受け入れており、茨城における畑地かんがいの振興にも大きく寄与している。

表【安静地区 畑かんマイスター制度受け入れ実績】

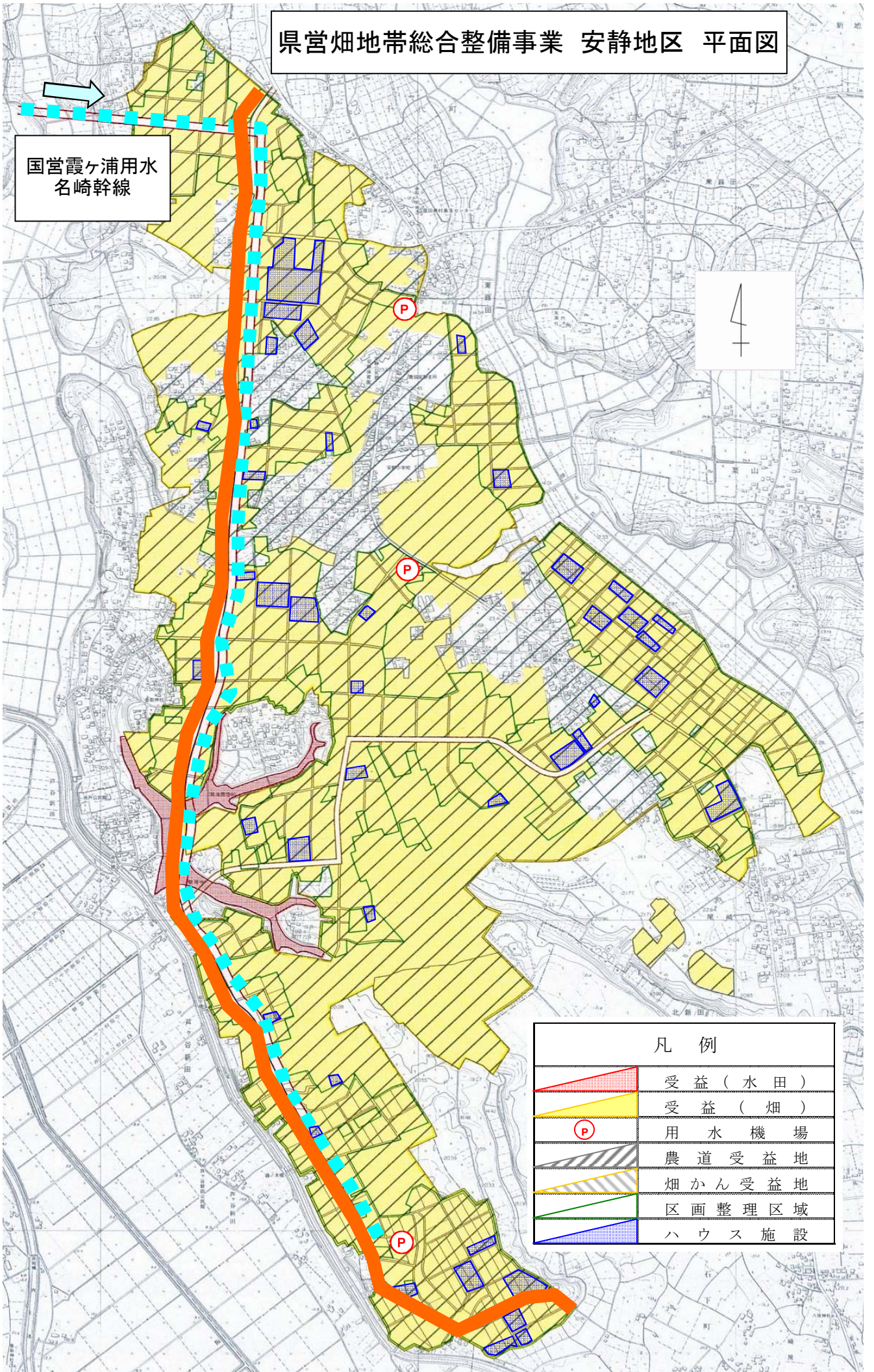
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	計
回	11	4	5	8	2	6	3	4	43
人数	195	89	127	145	48	90	51	60	806

# 県営畑地帯総合整備事業 安静地区 平面図

国営霞ヶ浦用水  
名崎幹線

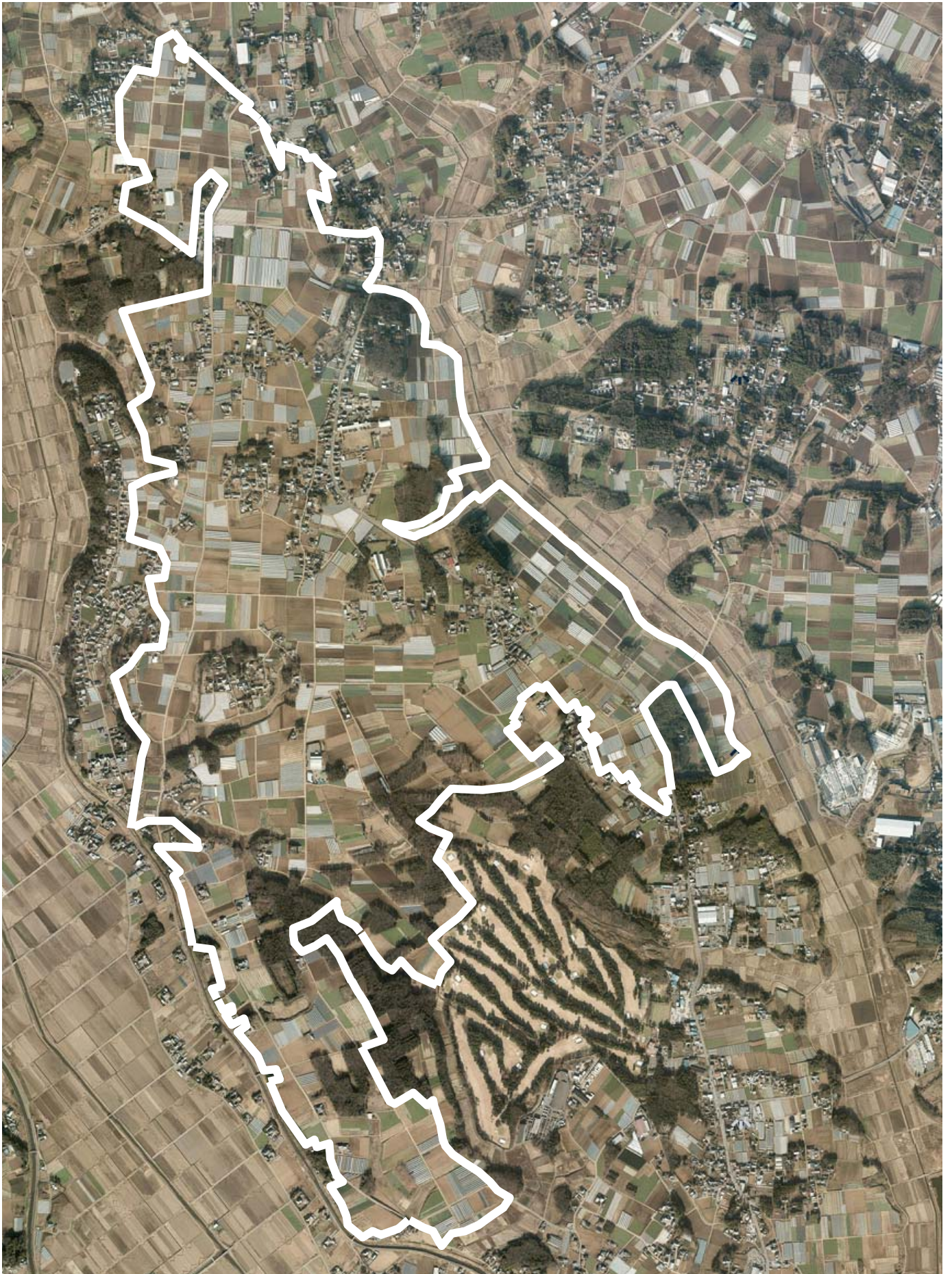


凡 例	
	受益（水田）
	受益（畑）
	用水機場
	農道受益地
	畑かん受益地
	区画整理区域
	ハウス施設

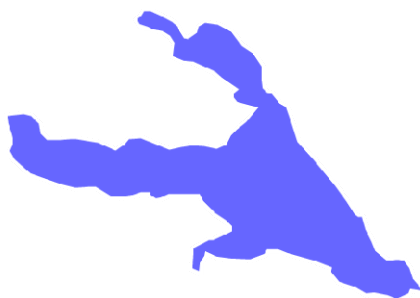




**県営畑地帯総合整備事業 安静地区 航空写真**



豊かで  
うるおいのある  
農業経営をめざして



畑地帯総合整備事業の概要

安 静 地 区

茨城県県西農林事務所

# 事業の概要

霞ヶ浦の水を使い、広いほ場で効率よい  
安定的な営農を展開するために。



## 畑総安静地区の概要

当地区は、茨城県八千代町の南西部に位置する台地に拓けた畑作地帯で、首都圏にも近く、農作物の供給地として恵まれた位置にあります。

以前は、耕地の区画整理が行われていなかったため、昔ながらの狭い道路と狭い耕地で、耕作に大変支障をきたしていました。

## 事業の沿革

昭和 59 年に県営畑地帯総合土地改良事業が導入され、二十有余年の歳月をかけ、大区画の集団化されたほ場が整備されました。

平成 13 年からは、一部で畑地かんがいが始まり、今後はさらに水を有効活用した営農を展開していく方針です。

## 事業の内容



- 事業内容
  - 幹線道路 6,722m
  - 農業用水 A=90ha
  - 用水機場 3ヶ所
  - ファームボンド3ヶ所
  - 区画整理 A=183ha
  - 畑 A=183ha
- 総事業費 2,579,000千円
- 工期 昭和59年～平成18年

凡 例	
	水機構管用水路
	国営一期用水路
	国営二期用水路
	国営調整地
	国営用水機場

事業  
実施前

耕地は狭く、農道も未整備で曲がっていて、耕作にも支障をきたしていました。



未整備の農道

隣接未整備区域

未整備の耕地と農道。排水不良のため、大雨が降ると作物に多大な被害をもたらしてきました。



大雨後の冠水被害

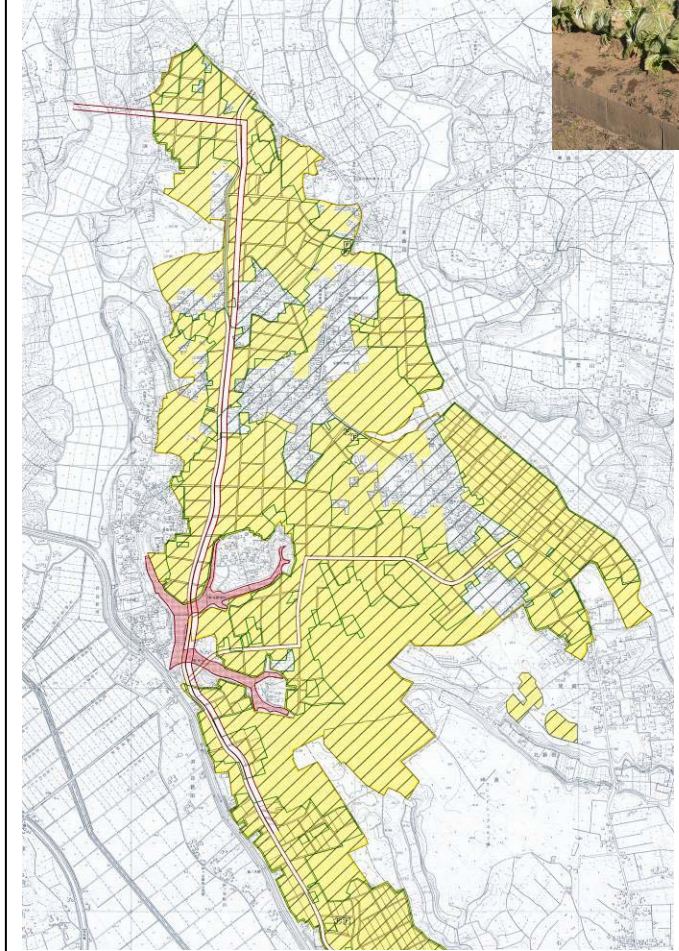


排水の悪い耕地

事業  
実施後

ほ場面積が大きくなり、道路や用水・排水路も整備され、効率的な農作業が可能になりました。

計画一般平面図



-----	町 村 境
■	受益地
■	用水機場
Ⓟ	農道受益地
▨	畑かん受益地
▧	区画整理地区(あわせ)
▭	幹線道路
▭	関連用水路(国営)



末端給水施設



用水機場



ハウス団地



農道と排水路の整備

事業の  
効果

計画的な営農ができるようになり、  
収量の増大と品質の向上が図られ、  
ハウスの増設が実現しました。



定植時等のかん水



還元型太陽熱土壌消毒のための一時たん水

用水の多様な利用法



防除用水も短時間で汲める

どの畑にも道路と排水がつき、作業効率が大幅に向上しました。また、畑の湿害がなくなり、作柄が安定しました。

水を使えるようになったので、種まき、植付けが畑の乾き具合に左右されずに行えるため、計画的な作付け、出荷ができるようになりました。

水をかけることにより、収量の増大と品質の向上が図られました。

作物選択の幅が広がり、新たな品目が導入されました。

ハウス団地（約 15ha）をつくることができました。

栽培作物の各時期における変化

年度	<施設>				<露地>				
	品目数	1	2	3	4	5	6	7	8
H15~16 年度	5	3	5	4	6	5	5	5	
		レタス	ホウレンソウ	メロン	ミズナ	リーフレタス	夏ネギ	カブ	
		ハクサイ	カブ	メロン	カブ	カブ	ナス	ナス	
		メロン	トルギキョウ	メロン	カブ	キャベツ	ナス	ナス	2
			トルギキョウ	メロン	カブ	キャベツ	ナス	ナス	
H12~14 年度 (H13年通水)	5	3	4	4	4	5	5		
		レタス	カブ	メロン	カブ	カブ	夏ネギ	カブ	
		ハクサイ	カブ	メロン	カブ	キャベツ	ナス	ナス	
		メロン	トルギキョウ	メロン	カブ	キャベツ	ナス	ナス	2
			トルギキョウ	メロン	カブ	キャベツ	ナス	ナス	
H10~11 年度	5	3	3	4		3	3	4	
		レタス	ホウレンソウ	カブ		キャベツ	ナス	キャベツ	
		ハクサイ	ホウレンソウ	カブ		レタス	ナス	キャベツ	
		メロン	ホウレンソウ	カブ		レタス	ナス	キャベツ	1
			ホウレンソウ	カブ		レタス	ナス	キャベツ	
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
	3~5月	6~8月	9~11月	12~2月	3~5月	6~8月	9~11月	12~2月	

# 安静地区作付状況調査結果

## 春作

平成22年 5月 調査

作物名	合計		露地	施設	
	作付面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	面積 (ha)	
野菜	ハクサイ	35.2	18.9	33.2	2.0
	メロン	24.3	13.1	18.8	5.5
	レタス	21.7	11.7	21.3	0.4
	キャベツ	21.3	11.5	19.6	1.7
	スイカ	8.1	4.4	8.1	
	トウモロコシ	7.2	3.9	6.9	0.3
	カボチャ	7.1	3.8	7.1	
	ホウレンソウ	5.8	3.1	2.2	3.6
	ネギ	5.4	2.9	4.4	1.0
	ナス	1.7	0.9	1.7	
	トマト	1.7	0.9	1.4	0.3
	ピーマン	1.3	0.7	0.3	1.0
	ブロッコリー	0.9	0.5	0.8	0.1
	カリフラワー	0.9	0.5	0.1	0.8
	エダマメ	0.6	0.3	0.6	
	ニラ	0.4	0.2	0.0	0.4
	カブ	0.3	0.2	0.3	
	ミズナ	0.3	0.2	0.0	0.3
	キュウリ	0.3	0.2	0.0	0.3
	ニンジン	0.2	0.1	0.2	
アスパラガス	0.2	0.1	0.0	0.2	
チンゲンサイ	0.1	0.1	0.0	0.1	
花卉	芝	0.8	0.4	0.8	
作物	水稲	3.8	2.0	3.8	
その他	家庭菜園	2.7	1.5	2.7	
	育苗	1.9	1.0	0.0	1.9
	緑肥	0.7	0.4	0.7	
	植木	1.5	0.8	1.5	
	その他	29.6	15.9	27.5	2.1
合計	186.0	100.0	164.0	22.0	

## 秋作

平成22年 10月 調査

作物名	合計		露地	施設	
	作付面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	面積 (ha)	
野菜	ハクサイ	63.7	34.4	61.2	2.5
	レタス	41.2	22.2	39.5	1.7
	キャベツ	24.1	13.0	23.9	0.3
	ホウレンソウ	11.3	6.1	3.7	7.6
	ナス	3.3	1.8	3.3	
	ネギ	2.5	1.3	2.5	
	メロン	2.2	1.2	0.0	2.2
	ショウガ	1.6	0.9	1.6	
	トマト	0.6	0.3	0.0	0.6
	ニンジン	0.5	0.3	0.5	
	アスパラガス	0.4	0.2	0.2	0.2
	ピーマン	0.4	0.2	0.3	0.1
	ブロッコリー	0.4	0.2	0.4	
	ミズナ	0.3	0.2		0.3
	ダイコン	0.3	0.2	0.3	
	ニラ	0.3	0.2	0.0	0.3
	キュウリ	0.3	0.1		0.3
	タマネギ	0.0	0.0	0.0	
	チンゲンサイ	0.0	0.0	0.0	0.0
	花卉	芝	0.6	0.3	0.6
作物	水稲	3.2	1.7	3.2	
	蕎麦	0.1	0.0	0.1	
	飼料作物	1.1	0.6	1.1	
その他	育苗	1.6	0.8		1.6
	家庭菜園	3.0	1.6	3.0	
	植木	1.6	0.9	1.6	
その他	20.9	11.3	16.5	4.4	
合計	185.4	100.0	163.3	22.1	

茨城県県西農林事務所土地改良部門